

平成28年度 東京都立南平高等学校 学校経営報告

校長 吉田 寿美

平成25年度から平成28年度、本校は重点支援校に指定され、①「南平到達度教育」の指導プログラムの実施に基づく教科指導の組織化と学習支援の強化による生徒の学力向上、②防災教育の推進による地域および関係機関との協力体制の確立の2点を推進してきた。

平成28年度は、①開校当時から受け継がれている本校の教育理念、②歴代校長の学校経営の方針及び状況、③生徒・保護者・教職員・地域の思いの3点を汲んで、「目指す学校像」の策定、そして「目指す学校像」の実現に向けての平成28年度学校経営計画の策定を行った。その際、「勉強も 部活動も 学校行事も」を合言葉にし、本校の教育活動を推進してきた。

本校の生徒・保護者は、①本校の自主自律の精神、②充実した学校生活、③希望の進路実現を、本校の選択理由として挙げている。28年度は、新たに西部学校経営支援センター特別指定校として、「教科主任会を中心とした組織的な学力向上と進学実績の向上」を目標に掲げ、①自主学習時間の定着、②センター試験受験科目75%以上の得点者の2点を指標とし取り組んできた。

そして、東京都西部学校経営支援センター特別指定校の予算の一部を外部コンサルティング業による「学校評価アンケート」にあて、専門家による本校の経営状況の分析結果をもとに、29年度に向けて更なる学校の教育活動の改善を行うことにした。

平成28年度の取組状況と自己評価について、以下のとおり報告する。

目指す学校像

『高い志を抱き、真摯に取り組み 進路を切り開く』

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

1) 学力向上「わかるからできるへ、授業の質の保証」

①平成28年度入学生から新教育課程となったが、1年目の今年は、円滑にスタートできた。数学、英語、保健体育の授業では、少人数・習熟度別授業の利点を生かし、個々の生徒に応じた対応を行っている。

②各教職員は、センター試験75%得点率を目指し、教科主任会に基づく教科会での連絡・調整・研修、校内での相互の授業参観、指導教諭の授業参観、予備校研修、「生徒による授業評価」結果の活用等の組織体制のもと、アクティブラーニング、ICT機器の活用等、指導方法の工夫に努め、授業はもちろん、授業以外の補習・講習も行っている。今後も、①生徒自身が主体的に課題に取り組み続ける50分間の授業、②生徒自身の自主学習につながる授業を目指し、校内での教科主任会を軸とした研修体制を強化する。

③体力テストの結果は、体育の授業でのコーディネイトレーニング、活発な運動部の活動を背景に、東京都の都立学校の中では上位の成績を出している。読書も、課題図書の見学指導もあり、未読率は0%である。

④「学校評価アンケート」では、「学力向上への努力」「学習支援の積極性」といった学校及び教職員の取組に対する評価は高いが、生徒自身に関わる「学業と部活動の両立」「学習時間の確保」「南平学カスタンダード」「定期考査に臨む意欲」はそれほど評価が出ていない。東京都西部学校経営支援センター特別指定校の指標の一つである自主学習時間は、9月の調査（文化祭・体育祭終了時）で1年生67.2分、3年生60.2分、2月の調査で1年生75.52分、2年生90.7分である。

今後は、生徒自身が、南平高校の求める学習レベルを意識し、小テスト、定期考査、模擬試験を定点観測の場とし、時間を有効に活用し常に一定時間の自主学習を進められるよう、学校として、授業・授業外で働きかけを行う。

2)進路指導「高い志に向けてチャレンジさせる指導」

- ①平成28年度から、「3年間を見通した進路指導計画」に基づき、進路指導部主導による進路指導体制を敷いた。進路データの蓄積、進路通信の発行、進学指導校内研修、進路ガイダンス、保護者会、三者面談指導、放課後・休日の教室を中心とした自主学習支援など、進路指導部と各学年が連携し、生徒の希望進路実現に向けた指導を行った。平成29年度は、放課後や長期休業中に、生徒が自主学習できる自習室を整備していく。
- ②進路指導部が取りまとめ、長期休業期間を中心に昨年度よりも多くの補習・講習が開かれ、多くの生徒が受講した。冬季休業中に実施した2年生のウィンター・セミナーは、昨年度の2.5倍の生徒が参加する盛況ぶりであった。
- ③今年度から、全教職員に模擬試験結果を活用するソフトを導入し、全教職員が生徒の状況を即時に把握できる体制にした。今後は、共有したデータを分析し、授業・補習・講習に活用するための分析会をより一層充実させる。
- ④「学校評価アンケート」では、1年生から3年生の流れの中で、「将来に照らした行動選択(生徒)」「進路意識の高まり」「進路指導」の項目が、2年生で停滞している。本校の生徒・保護者から高い評価を得ている「充実した学校生活」を支える大きな要因が、本校では「進路指導」であった。「進路希望を作る指導」と「進路希望を実現させる指導」の狭間にある2年生には、最終的な進路決定に至るまでの大小様々な選択の機会に、生徒自身が選択にきちんと向き合い、気付きを積み上げるようにしていく。
- ⑤3年生の進路実績である。東京都西部学校経営支援センター特別指定校の指標の1つであるセンター試験受験科目75%以上の得点者は、昨年度の20%を超え27%である。国公立・難関私立大学の合格実績は昨年度に近い結果である。また、①国公立大学の合格者数が昨年度の2倍近くであること、②薬学・看護系の大学進学者が増えていることは、特記したい。

3)生活指導心・知・体を磨く「学校生活全般に渡って、濃やかな指導」

- ①「学校評価アンケート」では、「良好な人間関係」「充実した高校生活」「高校生に相応しい行動」「方針に基づく生活指導」の項目で、生徒・保護者から高い評価を得ている。本校の生活指導のあり方は、人間関係、部活動も、学校行事、きまり等、概ね良好である。生徒会作成のSNSルールも、生徒に周知している。全国・関東大会をはじめ東京都ベスト16の結果を出す部活動も複数あり、運動部・文化部ともに部活動が活発である。
- ②学校の危機管理対応と生徒の基本的な生活習慣を確立させるために平成27年度に検討していた生徒の登下校の時間のルールを、平成28年度から実行した。今後も、登下校時間を守らせる指導を続けていく。
- ④様々な状況を抱えて個別に支援が必要な生徒に対しては、教職員の共通理解を図りながら、必要な時には病院や特別支援学校等と連携し、生徒・保護者の気持ちに寄り添い指導を行った。特別支援学校との連携、SC及び大学講師による校内研修会の開催により、「合理的配慮」への校内の共通理解を深めた。
- ⑤環境整備については、引き続き生徒に公共の場である学校を気持ち良く使う気持ちを大切にさせ、美化清掃活動を進めていく。
- ⑥①昨年度よりも増えた遅刻者数、②自転車通学マナーへの苦情、③安全に配慮した学校行事については、学校の課題と受け止め対応していく。

4)信頼され、開かれた学校「生徒・保護者・地域の意見の反映」

- ①1年生の「人間と社会」での地域と連携した体験活動、部活動における地域の小・

中学生との交流やボランティア活動、公開講座や施設開放事業等、地域との連携活動を行い、関係者から喜ばれている。

- ②多くの関係機関と連携した防災教育では、生徒自身が自助・共助・公助の意味を理解するだけでなく、実践することを目指した。平成28年度は、火事のみならず様々な災害を想定し避難する避難訓練を4回行った。部活動の生徒が中心となり、大雨による土砂崩れの危険性が想定される場所に位置した屋外倉庫内の災害用物資を、新たな校内の倉庫に移動する作業を行い、災害用物資の移動が無事完了した。また、平成28年度からは、各クラスに、教職員・生徒用の防災ヘルメットを設置している。
- ③平成28年度は、オリンピック・パラリンピック教育に関する委員会を立ち上げ、各教科でオリンピック・パラリンピック教育を推進した。12月には、元ラグビー日本代表チームキャプテンによる「オリンピック・パラリンピック講演会」を実施し、生徒にオリンピック・パラリンピックの魅力、部活動の素晴らしさ、文武両道への意欲喚起を熱く伝える場となった。
- ④東京都西部学校経営支援センター特別指定校に指定された予算の一部を、外部コンサルティングによる学校評価アンケートにあて、質問設計、集計、分析を依頼し、迅速できめ細かい分析が可能となり、その結果、教職員が分析内容を検討し、課題・改善を考える時間をとることができた。生徒による授業評価も記述式を採用入れ、生徒の個々の意見が教職員に届くようにした。
- ⑤タイムリーなHPの更新も心掛け、年間の授業数よりも多い更新回数で、まめに学校の情報発信を行っている。「学校評価アンケート」でも学校の情報発信に対して肯定的意見が多い。本校は独自のHP形式に関しては、個性的という意見と他校と同じ形式にしてほしいという意見に分かれている。平成29年度は、他校と同じ形式のHPへのリニューアルを考えている。
- ⑥平成28年度から、校内での長期休業中の学校見学、学校説明会、校外での学校説明会に、総務部を中心に多くの教職員が関わることにした。校内での学校説明会では、本校生徒による学校説明及び部活動紹介が、生徒・保護者に好評であった。

(2) 重点目標への取組と自己評価

1) 学力向上

- ①「生徒による授業評価」肯定的評価→7月78%、12月65%
- ②「学校評価アンケート」南平学力スタンダードへの「生徒の到達目標点(定期考査)通過率」→68%
- ③1、2年生「外部模擬試験(年度末)」同一学年のデータ前年度超え→1年生達成
- ④生徒の学習時間→1年生75.57分、2年生90、7分
- ⑤体力向上→昨年度と同様の結果
- ⑥読書未読率→0%

2) 進路実現

- ①「センター試験得点」全国平均超えの科目→20科目中19科目
「センター試験受験科目75%以上の得点者」→27%
- ②国公立大、難関私立大学現役合格者数
延べ合格者数→210名 実合格者数→165名
- ③「長期休業中の補習・講習」→71講座
- ④「学校評価アンケート」進路指導満足度→生徒78%、保護者69%、教職員77%

3) 心・知・体を磨く

- ①生徒遅刻数→1年→201回、2年→460回、3年→358回
1年生は3人中1人程度、2年生は4人に1人程度、3年生も8人に1人程度が皆勤賞であり、遅刻する生徒の特定化が見られる。

②頭髪指導対象生徒→3名(0名)

自転車交通事故→1件

「学校評価アンケート」行事満足度→生徒90%、保護者91%、教職員95%

③部活動加入率→86%

④インターハイ・関東大会出場→2部

⑤ベスト16以上※個人種目含む→4部

⑥文化祭入場者延べ数→3649人

⑦「学校評価アンケート」教育相談体制の充実度

→生徒80%、保護者63%、教職員90%

⑧「学校評価アンケート」環境整備による施設設備等の満足度

→生徒78%、保護者75%、教職員65%

4) 信頼され、開かれた学校

①「学校評価アンケート」防災教育満足度→生徒78%、保護者74%、教職員77%

②HPアップ回数→228回

③学校説明会参加者合計数(※中学校・塾含む)→3146名

④学校見学者数→1888名

⑤入選倍率 推薦→2.38倍 一般→1.63倍